

評価すべきでないことは言うまでもありません。

大人からの多面的な評価と支援の下で育った子どもたちが、将来の地域を担う人材になっていくはずですが、

地域が元気であり続けるためにも、学校の中で一人ひとりの個性に合わせた柔軟な取り組みが保障されていない必要があります。それは、時間的なものであり、施設や設備のハードの面であり、教職員の自主性への寛容であるでしょう。

第六十四次を迎えた福井県教育研究集会は、教職員だけではなく、保護者の方、退職後地域で活動されている私たちの先輩の方々、さらに議員の皆様にも参加いただき福井の教育について語り合う場です。時代の移り変わりとともに開催形式や内容も変わってきましたが、子どもたちの豊かな学びを創り出したいという願いは一貫しています。

本日の開催に至るまで年度当初から準備に携わっていただきました勝山支部の皆さんに感謝申し上げますとともに会場として使わせていただきます勝山南部中学校の関係者の皆様にお礼申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。



## 全体講演会

# 「地球のステージ2 ～国境を越えて～」



【講師】 桑山 紀彦 氏 (NPO法人 地球のステージ代表理事)

澄んだ歌声と共に、震災や紛争の地であるイラン、パレスチナ、東ティモールの被災地の状況がスクリーンに映し出されました。日本と遠く離れた地で起こっている現実、参加者の目はくぎ付けになりました。ボランティアとして医療活動に従事しながら、現地の子どものためにサッカーの試合を企画していく桑山さんの姿。そして何より、厳しい状況であってもたくましく生きる子どもたちの笑顔。人と人とのつながりと生きることのすばらしさが、桑山さんの歌声によって伝わってきました。

また、東日本大震災後の被災者の心に寄り添った支援活動の様子からは、人として、また日本人として私たちができることは何か、を深く考えさせられました。昨年同様、参加者の心に響く公演となりました。

### 参加者の感想

心がふるえました。桑山さんの語りや映像にひきつけられ、涙が出ました。自分にできることはなにか、と考えさせられました。

ニュースで聞いたことのある地域のことを映像と話で詳しく教えていただき、とても心にしました。世界中の子どもの力はやはりすばらしいと感じました。



日々、子どもたちの対応に疲れを感じることもありますが、一人ひとりの子どもの“光るところ”を見つけ、自信をつけさせ、本当の意味で「強い人間」を育てたいです。

毎日、忙しさに不満を持つこともありましたが、世界の人々、東北の人々の思い、生き様、生き方に元気をもらいました。勤務する学校の子ども、そして自分の家族に元気を与えられる人間になりたいです。